

第4章

新石器時代 甘肅彩陶が華開いた時代

発掘調査では、新石器時代の土坑墓71基、土器棺26基などが発見され、土器の特徴などから約4,000年前にまでさかのぼる集団墓地であることがわかりました。

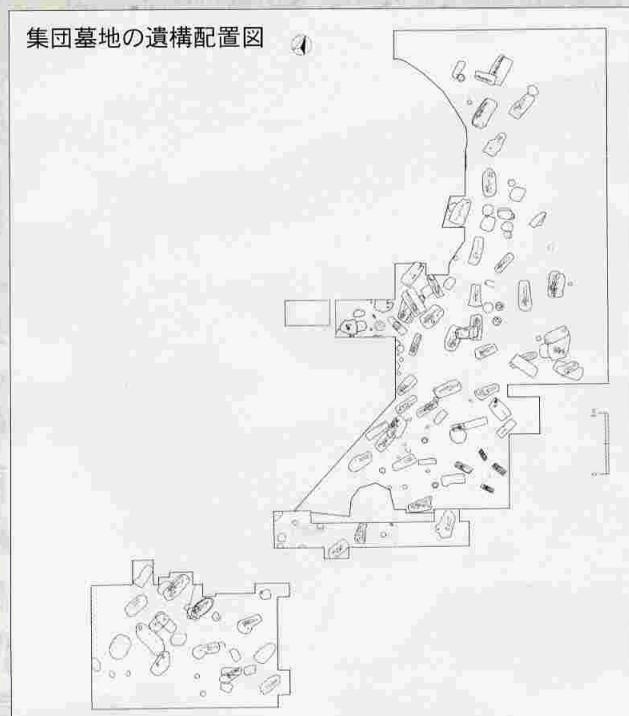
磨嘴子遺跡の低位面と高位面



さて、集団墓地を調査すると、墓坑内の人骨は、完全な姿で残っているものではなく、なぜか体の一部分が足りないものばかりでした。とてもミステリアスではないですか？調査団はこう推測しました。つまり、当時の人々は亡くなった人を埋葬した後、お墓を掘り返し、人骨の一部を持ち去る風習があった、と。中には足の骨が「X字」に組み直された人骨もありました(12頁上段左)。現代の私たちには少し想像できないような独特の葬送習俗があったのでしょうか。子供の骨が納められている土器棺や、生前の病気または老化により背骨が変形した珍しい人骨など、貴重な発見もありました。

左は集団墓地の平面図です。ほとんどのお墓では頭が南側に向けられています。「北枕」とはいいますが、時代や土地によってさまざまな風習があったのでしょう。謎は深まるばかりです。

集団墓地の遺構配置図





壮観! 新石器時代の集団墓地

これだけたくさんの墓が河西回廊で調査されたのはめずらしく、とても貴重な事例となりました。墓の向きや配列には、何らかの決まりごとがあったのでしょうか。



動かされた人骨

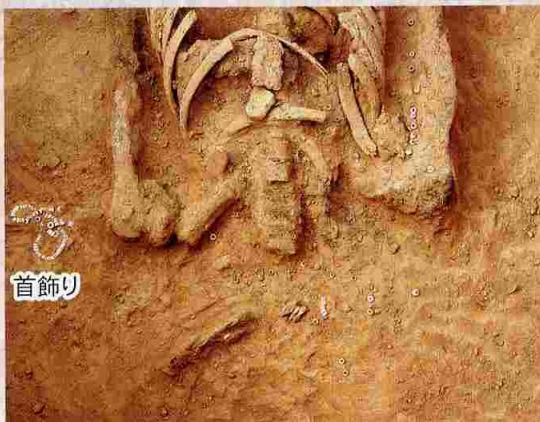


埋葬後に掘り返され、骨の一部が動かされたり持ち去られたりしています。

(左) 足の骨が「X字」状に組まれています。

(中) 頭骨と肋骨が置き直されて、頸骨が持ち去られています。

(右) 右足の骨が動かされ、頭骨と頸骨が持ち去られています。

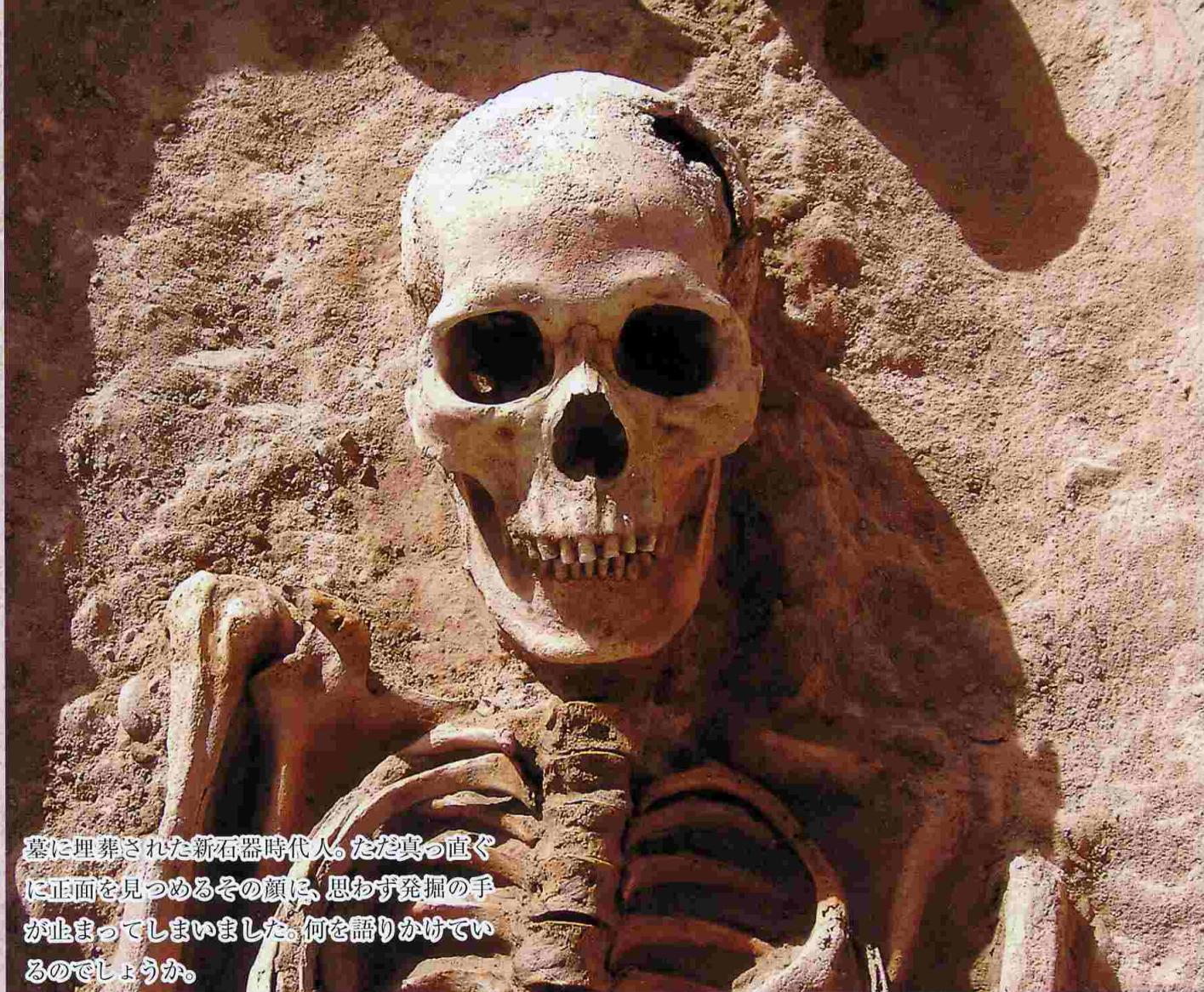


(左上) 頭骨が取り出されたため、白いビーズ
のような首飾りが散乱している様子です。

(右上) 背骨が癒着したり変形している人骨
です。生前の病気や老化を示しています。

(右) 土器棺の中に残っていた小児の骨です。

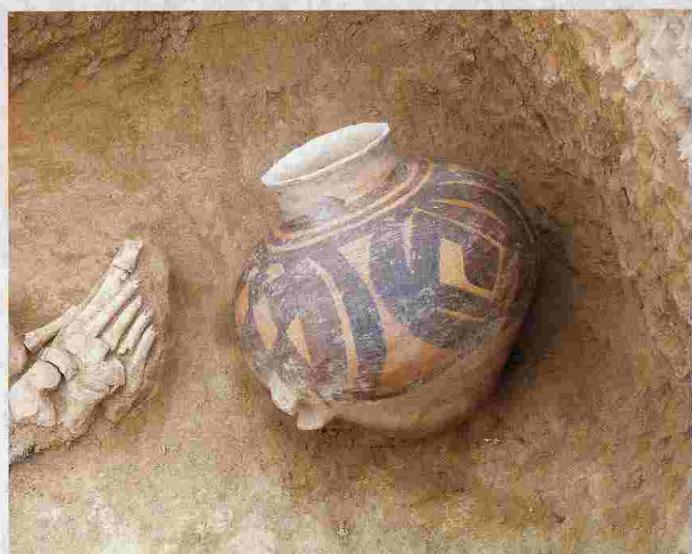




墓に埋葬された新石器時代人。ただ真っ直ぐ
に正面を見つめるその顔に、思わず発掘の手
が止まってしまいました。何を語りかけてい
るのでしょうか。

彩陶

遺跡から出土した彩陶は、いずれも新石器時代馬家窯文化馬廠類型(約4,000年前)と呼ばれる時期のものでした。どれも赤地に黒色で様々な文様が描かれています。彩陶の起源については、西アジア起源説や南アジア起源説、中国自生説など諸説ありますが、世界中に類似した土器が見つかっています。総称して彩文土器といいますが、漢代以降に定着したシルクロードと同じようなルートを通って伝わったものでしょう。



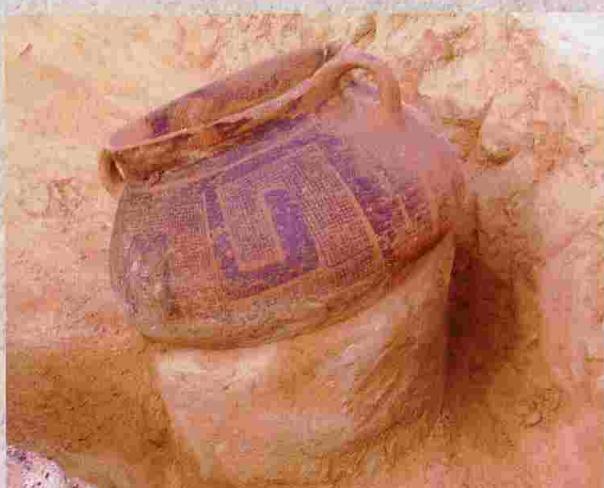
土坑墓に副葬された彩陶

地面を薄く削っていくと、ひょっこりと土器が顔を出します。土器埋設遺構発見の瞬間です。

発見!



いろいろな文様が描かれた彩陶



～ともに学び、ともに語らう～

左の写真は、県交流員が王輝団長に図面チェックをしてもらっているところです。議論を交わしながら納得のいく図面を仕上げていきます。左下の写真は、休憩中の一コマ。お互いにタバコを交換して一服。友情が深まります。



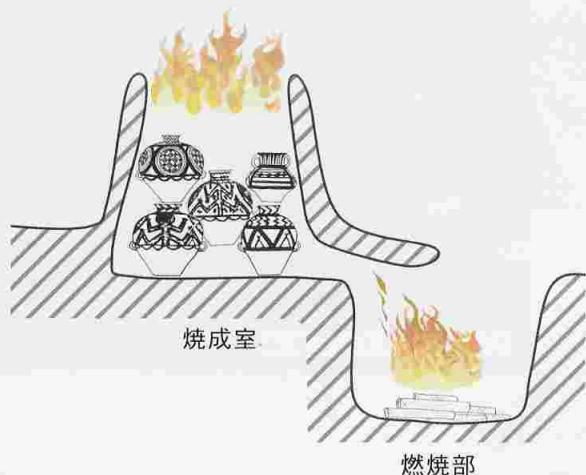
集団墓地より50mほど高い地区でも発掘調査をしました。そこでは、墓が見つからないかわりに、多数の彩陶の破片とともに陶器窯9基、土坑49基を発見しました。

陶器窯は、燃焼部からトンネル状の火道が焼成室にのび、熱を伝達する構造です。彩陶の生産技術を研究するうえで重要な資料になりました。

高位面の遺構調査



陶器窯跡の断面模式図



陶器窯跡の写真



また、右の写真のように袋状の小さな土坑や柱穴を伴う土坑が見つかりました。お墓のように人骨や副葬品はありません。竪穴の住居だった可能性があります。

中国ではこの時期、夫婦用の小形住居があったと言われています。磨嘴子遺跡の袋状土坑もそうかもしれません。

今回は部分的な発掘調査でしたが、見晴らしのよい高台に集落跡が広がっている可能性がきわめて高くなりました。

